



グリーンポトスニュース

11号：98年7月

梅雨の合間にのぞく太陽が真夏の近いことを教えているようです。しかし、暑かったり涼しかったりで、体調の維持が難しい季節でもあります。無理をせず、早めの治療をおすすめします。今月のお話は、ペインクリニックでは、星状神経節ブロックと並ぶ治療手段の一つである『硬膜外ブロック』です。

硬膜外ブロック

ペインクリニックでは、星状神経節ブロックと硬膜外ブロックが治療方法の70～80%を占めるとも言われています。硬膜外ブロックとは硬膜外腔という脊髄神経の外にある空間に局所麻酔薬を注入することにより、脊髄神経から出てくる痛みを支配する神経や血行を支配する神経を一時的に麻痺させて、痛みをとり、血行を改善して病気を治す治療法です。脊髄神経は頸部から足先まで支配しているため、硬膜外ブロックは頭部を除く全身の痛みによく効きます。たとえば、肩こりや、ギックリ腰・椎間板ヘルニアなどの腰痛症、膝・足の痛みなどに対しては非常に有効です。その他、帯状疱疹後神経痛、反射性交感神経萎縮症などの交感神経を介する疾患にも有効です。局所麻酔薬の濃度を濃くすることにより、手術での麻酔に、また、手術後の鎮痛にも使用されます。昭和天皇陛下が手術されたことを覚えておられる方も多いと思いますが、実はその時の麻酔は硬膜外麻酔で行われました。手術後も硬膜外麻酔は続けて行われ、術中術後にかけて、天皇陛下はほとんど痛みを感じることはなかったそうです。硬膜外麻酔は今では多くの病院にて行われていますが、普通の全身麻酔に比べて手技が複雑であること。また、麻酔を専門

とする医師である麻酔科医が少ないこともあり、まだまだ一般的でないのが実状です。硬膜外ブロックも硬膜外麻酔と手技的には全く同じなのですが、使用する針が極めて細いため、より技術を必要とする治療法です。ブロック全般にいえることですが、手技を修得するのが難しいために、普及していません。しかし、しっかりと修得してしまえば、これほど有効で安全な治療方法はありません。何とんでも天皇陛下も体験しているのです。これが何よりの証明だとは思いませんか。かめざわクリニックでは天皇陛下と同じ治療方法が受けられます!?

